

連扇による小山市との繋がり

本会と小山市の繋がりは、毎年春に行っている草刈り遠足が始まりである。小山市の生井桜まつりは、本年は久しぶりに生井桜堤で行なわれ、快晴にも恵まれ、渡良瀬遊水地第二調節池周辺地区治水事業促進連絡協議会の米田弘会長からカスリン台風の時の堤防決壊の様子を決壊口跡で聞くことができた。それと同時に、本年3月16日、17日に番所橋船着き場周辺で行われた川の駅オーパーニングにおいて、和船から揚げられた連扇を持って行き、小山市生井の空でも江東区の小学生が思い思いに描いた連扇を揚げることができた。白鷗大学と東京海洋大学の学生によって小山市の子供たちとの交流が続けられているので、将来、小山市と江東区の小学生の交流ができるといいと思っている。

清洲橋通りの旧白河小学校正門脇には、干鰐場跡の碑が建っている。ここでつくられた干鰐の一部は江戸川、利根川、渡良瀬川などを経由して思川の乙女河岸で肥料問屋を営んでいた小川家に運ばれたことであろう。肥料蔵を含めた5棟は登録有形文化財になっており、現在は小山市立車屋美術館として公開されている。

下生井小学校の校庭で大久保市長は隣のビール麦の畑について説明してくださいました。このビール麦によって墨田区にあるアサヒビールと繋がっている縁で、墨田区で毎年夏に開催されていた「吾妻橋フェスト」では小山市と東京海洋大学が共同で出店するなどの繋がりもみられた。

今後も様々な形で小山市と江東区のような川の上流と下流の町が連扇のような繋がりと結びつきを期待したい。(庄司邦昭)



生井の空に揚がる連扇

干鰐場跡の碑



特定非営利活動法人 江東区の水辺に親しむ会 会報 2013年(平成25年)9月20日発行



和船乗船体験



クローバー橋とスカイツリー



動力船



川端太鼓クラブ



スカイダック



キャンドルナイト

第14回 水彩フェスティバル

事業報告とお知らせ

◇6月22日、平成25年度通常総会を開催

毎年の通常総会では、記念講演を実施しています。今年は我々の知らない河岸の世界、森本理事の食にまつわる話を聞くことが出来ました。明治学院大学の活動報告では、地域に関わって活動している様子を楽しそうに語ってくれました。

総会では本人の出席が23名、委任が54名（委任30名、議決権委任24名）の計80名により成立、すべての議案が承認されました。

◇7月15日、第12回明治丸シンポジウムを開催

これまで、日本の歴史に大きく貢献してきた明治丸の修復のために、毎年海の日に開催してきた明治丸シンポジウム。一般の方々の関心が鍵と、広くアピールするために続けてきました。そして、第12回を迎える今年、文化庁から修復のための予算が出ることになったのです。これに因んで、タイトルは「蘇る明治丸」とし、今年は明治村の館長である鈴木博之先生に、保存の難しさや手法など実際の経験からお話しいただきました。引き続いて、佐今後どうしていくべきかの藤副区長を交えたディスカッションでは、やはり地域の皆さんの協力が必要との結論です。修復工事の完成は平成27年3月。その年の海の記念日7月20日に向けて、今後どのように中身を積み上げていくか、今から企画が始まっています。

◇水彩サロン秋学期 一荒川上下流のつながり— 山を知ろう、川を知ろう、海を知ろう

10月20日（日）「荒川上流部の治水」 講師：河村賢二（荒川上流河川事務所長）
11月17日（日）「河が支える江戸前の豊かさ」 講師：風呂田利夫（東邦大学東京湾生態系研究センター訪問教授）
12月 8日（日）「木を伐ると、川が綺麗になる！」？ 講師：肥後賢輔（独）森林総合研究所

参加費：各回1000円（資料代込、ドリンク付）講師による話題提供、参加者と講師で意見交換

会場：森下文化センター会議室 時間：14：00～16：00

お申し込み：先着順【直接窓口または電話】森下文化センター Tel03-5600-8666
【eメール】江東区の水辺に親しむ会 mizube@talo-city.co.jp

◇第14回全国まちづくりカレッジin東京を江東区大島で開催します！！

全国まちづくりカレッジ（通称：まちカレ）とは地域と協働したまちづくり活動に携わる、日本各地の学生や大学関係者等が一同に会し、お互いの交流を図り、自分たちのまちづくり活動の学習や実践に結び付けるために開催されるまちづくりの全国大会です。

第14回は初めての東京開催であり、一日目は12時過ぎから江東区大島地区の街歩きを、全国の学生とともに行います。お時間のある方は是非一緒に歩きましょう！

日程：2013年10月12日12時～2013年10月13日12時

場所：12日 フィールドワーク、ワークショップ：江東区大島周辺、第三大島小学校 13日 活動内容発表：明治学院大学

◇今年は二つの会場で 9月29日(日)開催(雨天中止)

水彩フェスティバルも14回を迎えるました。今年は例年のクローバー橋会場に加え、川の駅会場と二か所の会場で開催するという新しい試みに挑戦。

両会場ともカフェ、模擬店を開店します。クローバー橋では、これまでどおりの踊りや太鼓、コンサートといったパフォーマンス、和船や動力船の体験、工作教室などなど。10時から16時まで。

新しい川の駅会場では、今話題の水陸両用車「スカイダック」

の勇姿をみることができるほか、夕方から区内の保育園の子供たちが作ったキャンドルを灯して幻想的な水辺を演出するキャンドル・ナイトを開催。10時から20時。

さらに両会場を結ぶ「小名木川塩の道ウォーキング」も初めて実施。荒川ロックゲートや旧大石家といった江東区ならではの水辺の施設の見学など盛りだくさん。事前受付あり9時に都営新宿線東大島駅大島改札集合 参加費大人500円、子供300円（保険料等）

皆様のご来場を心からお待ちしています。また、お手伝いいただけるサポートーも募集中。サポートーには、毎年恒例の「美食」の忘年会への参加資格がゲットできるという特典もあります・・・（森本博行）

会員便り Letter

会員の皆様から各地のまちづくりの情報を寄せいただきました。

◇東北復興レポート 奈良朋彦

私は、2011年7月より岩手県住田町の仮設住宅団地の運営の手伝いをしています。団地には、陸前高田市や大船渡市で被災した方々が暮らしています。被災していない住田町が後方支援として建設した木造仮設住宅は、林業の活性化を目指す住田町のPRにもつながっていますが、私も仮設住宅団地での活動を通じて住田町の地域活性化のための市民レベルの活動に参加しています。

仮設住宅団地での活動は、見知らぬ同士が住む集合住宅であり、マンションコミュニティづくりの活動に近いものがあります。団地内の草刈や清掃などの環境整備、お年寄りや子どもの見守り、お茶会や呑み会などのサロン活動、手芸や音楽などの趣味サークル、外部からのボランティアの受け入れと調整、支援物資の仕分けと配布、団地の外の元住民も含めた交流会や文化祭の開催など。はっきり言って大工も土木も運搬も事務仕事も交渉も会計も何でもやる「便利屋」そのものですが、日暮れとともに終了し、団地の人や地元の人たちと一緒に東北の旬な食材とともに一杯飲む、という毎日で順調に体重を増やしています。便利屋ができるのも、奥ゆかしくて優しい東北の人たちの気質と、水辺の会で訓練された経験と勘があったからだと思っています。

最初こそ「東京から来た奇妙な若造」として警戒されましたが、どんな要請にも応え、ともに過ごす時間を



住田町が独自に建設した木造の仮設住宅。被災した居住者と地元の方々との交流のお花見会。居住者が手打ち蕎麦を振る舞う。



蔵の町並みが残る住田町の中心市街。かつては宿場で栄えたが、蔵を活用するための若者たちの試行錯誤が行われている。

積み重ねて、「被災者と支援者」とか「コミュニティ」という枠を越えて、「ファミリー」と呼んでもらえるような関係になっています。

そして、最近、新たに展開している活動として、震災を機に震災前の課題を克服しようとする市民活動のサポートです。まず始めに、町内の若者とロックバンドを組みました。遊びのようでは地域活性化を狙うこのバンドは、若者の地域離れを防ぐために、町内の蔵を活用したライブハウスを計画し、食文化や芸能文化を若者向けにPRして、町の文化に誇りを持ってもらいたいという親心からで、そのお手本として組んだものです。都会に行かなくても、楽しくて豊かな時間が過ごせることを証明してみせるための目的意識の高いバンドです。震災という負の部分を背負いつつ、若者たちがエネルギーを持って地域のために活動しています。

私がしている活動は、どのように人々は立ち直って、地域を震災前よりはるかに豊かに育っていくかという現場に身を置いていますが、東京を襲うとされる大地震を思うと、その不安におののくだけではなく、人間の素のたくましさを学んでおきたい気持ちに駆られます。

2年も時間が経ったのですからもっとお伝えしたいお話をたくさんありますか、今回の紙面では限りがありますのでこの辺りで。もうしばらく住田町や陸前高田市での活動が続き、水辺の会の活動には薄い関わり方しかできませんが、東北で修行してまいります。



若者の流出を止めようと立ち上がった、蔵を活用するサークル。バンド演奏やクラブ音楽を流したり、地元食材を使ったパーティを行っている。

◇ロンドンの水辺 小浪博英

2013年6月初め、まちづくりの世界的先駆者であるエベネザー・ハワード氏が今から100年以上前の20世紀初頭に提唱した世界最初の田園都市、レッチワースを訪ねた。レッチワースはロンドンから北へ約60km、日本のニュータウンとは違つて農地や職場をも兼ね備えたニュータウンである。中心部のブロードウェイには美しい噴水もあり、100年も前にこんな美しい街を作つたのかと感激してしまった。

そこから電車で30分も行くとケンブリッジに着く。ケム川に橋を架けたのでケムとブリッジが一緒になつてケンブリッジになったことを初めて知った。大学の構内にはケム川を利用したボート遊びの場所があり、多くの観光客を集め格好の学生アルバイトの場所になっている。学生が和船のような船上に竿を差して10人くらいの観光客を乗せケム川をゆったりと行き来している。小名木川もこうできたら良いなど、無理なことを考えてしまった。

ロンドンといえばテムズ川。ウェストミンスター寺院と国会議事堂を見下ろす対岸にロンドンアイという大観覧車が建設された。これはイギリスが21世紀を迎えるにあたりフランスのエッフェル塔に負けないものを作りたいと思って、20世紀最後の1999年12月31日に完成させた直径約150m、カプセルと呼ばれる25人乗りのゴンドラ（ぶら下がってはいないのでゴンドラではないけれど）32個がついている。これも水辺であればこそできることか。毎日1万人の観光客が来るという。



レッチワースの都心



ケム川の舟遊び

◇ブルックリンの水辺 吳純子

2013年8月18日(日曜日)久しぶりにブルックリンブリッジパークを訪ねました。マンハッタンを一望できる絶好の場所だと私は思います。まだブルックリンブリッジが建てなかつたころ、この公園の土地は18世紀から港として使われ、頻繁に物流が行われました。19世紀に入り、美しい住宅がどんどん建treeられ、ブルックリンブリッジもでき、水辺の高級住宅街と物流の中心地であることと併いコミュニティが作られました。今になっては、港として使われていた当時の倉庫を建て壊し、コミュニティのための水辺の公園を作ろうという開発がされています。市長のブルーバーグが2002年に4億ドルの資金を出し、全面積34万平方メートルの公園を計画し、今でもまだ一部建設中です。

今となって、水辺の公園はいろんな活動に使われています。野外映画を公演したり、ヨガ教室をやったり、カヤックに野外コンサートなど、様々なプログラムがあります。そしてほとんどが無料でコミュニティに提供しています。私はここで犬の散歩とマンハッタンの夕日を見ることが好きです。

この地区的の住宅の価格もますます上がっていきます。ホテルや高級住宅のデベロッパーがますます進出し、水辺の土地を政府から買い取り、これからもどんどん開発されていきます。これは良いことなのか、コミュニティにとって迷惑なことなのかはまた討論すべきトピックの一つになりますね。



これから開発されようとする公園の隣の水辺の土地



水辺の古い住宅